

## 89 わらびてとう 蕨手刀



指 定 市有形文化財 平成5年7月1日  
所有者 佐久市

古墳時代末期から奈良時代にかけて用いられた鉄製の刀である。

質素な実用的な外装で把頭<sup>つかかしら</sup>の形が蕨手状をしているので名づけられたもので、古典的な名称ではない。把は把木がなく刀身より延付になっている。蕨手刀<sup>たがひ</sup>（又はわらび<sup>わらびてとう</sup>でのたち）の分布は東日本に圧倒的に多い。

美里の蛇塚古墳は西暦600年代の後期、奈良時代前後のもので、集落の首長とか土地の豪族の墓とされる白田地域最大のものである。

この蛇塚出土の蕨手刀は、同古墳を清掃中に玄室の左壁際からサヤに納まった状態で出土した。腐蝕は著しく進んでいる。白田では昭和40年（1965）3月に田口の英田地畑からも出土したが、この蕨手刀は現在国立東京博物館蔵となっている。

県下では蕨手刀12振が出土しており、白田地域の出土2振のほか、小諸市源田谷地古墳より1振、女神湖付近3振、東御市小見立、同瀬津より各1振出土している。